

本資料は、計画策定過程の資料になりますので、
一部最終の本編とのタイトルなどが異なります。

第2次(期)泉大津市教育振興基本計画 課題シート

重点目標1（仮）「すべての子どもの基礎学力の保障と、深く学ぶ力を育成します」

国の方針	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標1 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成 目標4 グローバル社会における人材育成 目標5 イノベーションを担う人材育成 目標6 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成 目標13 経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 学校教育の質と多様性、包摶性を高め、教育の機会均等を実現する これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する</p>	
関連する現行の方向性	<p>基本的な方向性1 一貫性のある学びの育成 重点1 幼保認小接続期カリキュラム（いちご接続期カリキュラム）に取り組みます 重点2 読書活動の推進に取り組みます 重点3 英語教育の充実に取り組みます 重点4 『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善を進めます 重点5 小中一貫教育を進めます 重点6 ICT機器を活用した学習活動を推進します</p>	
アンケート調査結果	<p>調査結果概要</p> <p>授業づくりのために特に重視していることについて、「単元や授業の目標を明確にして、児童生徒に見通しを持たせること」（小学校教員：69.5%、中学校教員：54.8%）が最も高い、他の9項目は5割未満。</p>	問番号
	<p>「泉大津市学力向上プラン」の全国学力・学習状況調査の問題分析、結果分析の視点による授業づくりについて、取り組んでいる小学校教員が73.5%、中学校教員が69.3%。また、リーディングスキルの視点を理解した上で授業づくりについて、取り組んでいる小学校教員が58.9%、中学校教員が46.8%。</p>	教員（2）
	<p>ICTを活用した学習の実践で特に活用し、効果的だと思う利用場面について、「□イロノートを活用した授業づくり」（小学校教員88.1%、中学校教員79.0%）「画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用（教員による教材の提示）」（小学校教員81.5%、中学校教員80.6%）「インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録（調査活動）」（小学校教員65.6%、中学校教員64.5%）が高い。</p>	教員（2）
	<p>学校での勉強について、最近感じるものについて、中学生に比べ小学生で「問題を解くスピードが早くなった」（小学生54.3%、中学生24.6%）「分からぬことが分かるようになった喜びを感じるようになった」（小学生49.7%、中学生36.9%）「勉強した内容と世の中の出来事が関係していることがわかつてきた」（小学生26.1%、中学生15.0%）が高い。一方、「特になし」（小学生11.0%、中学生24.5%）は中学生が高い。</p>	児童生徒（1）
	<p>学校の授業について、どんな学び方だと、理解が進むかについて、中学生に比べ小学生で「自分で学習の計画を立てて決めた方法で調べたり、考えたりする学習」（小学生64.6%、中学生37.5%）「グループで話し合ったり、作品をつくったりする学習」（小学生55.0%、中学生43.4%）が高い。一方、小学生に比べ中学生で「実験や観察、校外学習など、実際に見たり、聞いたり、触ったりして体験する学習」（小学生32.9%、中学生41.7%）「漢字や計算、英単語などのドリルに取り組む学習」（小学生25.6%、中学生35.2%）が高い。</p>	児童生徒（1）
学校や家庭での勉強について、ICT（情報通信技術）機器を活用した学習でよいと感じるものについて、中学生に比べ小学生で「タブレットを使って学ぶこと自体が新鮮で楽しい」（小学生48.6%、中学生36.8%）「自分が得意な内容や苦手な内容がわかるようになった」（小学生54.6%、中学生44.0%）「情報を共有し協力することで、自分と異なる意見や考えをもつことができた」（小学生42.7%、中学生34.6%）が高い。一方、「特になし」（小学生8.8%、中学生17.3%）は中学生が高い。	<p>学校や家庭での勉強について、ICT（情報通信技術）機器を活用した学習でよいと感じるものについて、中学生に比べ小学生で「タブレットを使って学ぶこと自体が新鮮で楽しい」（小学生48.6%、中学生36.8%）「自分が得意な内容や苦手な内容がわかるようになった」（小学生54.6%、中学生44.0%）「情報を共有し協力することで、自分と異なる意見や考えをもつことができた」（小学生42.7%、中学生34.6%）が高い。一方、「特になし」（小学生8.8%、中学生17.3%）は中学生が高い。</p>	児童生徒（1）

	<p>学校図書館で、本を借りている状況について、小学生で「月に数回以上」が 73.7%、中学生で「全く本を借りていない」が 77.3%。</p> <p>主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善について、中学生保護者に比べ小学生保護者で取組が進nできていると感じる保護者（小学生保護者 52.1%、中学生保護者 38.4%）が高い。</p> <p>言語能力及び情報活用能力の育成について、中学生保護者に比べ小学生保護者で取組が進nできていると感じる保護者（小学生保護者 49.8%、中学生保護者 31.6%）が高い。</p> <p>英語教育の推進について、中学生保護者に比べ小学生保護者で取組が進nできていると感じる保護者（小学生保護者 49.4%、中学生保護者 31.6%）が高い。一方、「知らない」保護者も高い（小学生保護者 26.1%、中学生保護者 33.8%）。</p> <p>キャリア教育の推進について、取組が進nできていると感じる保護者（小学生保護者 15.8%、中学生保護者 16.5%）が低い。一方、「知らない」保護者も高い（小学生保護者 52.1%、中学生保護者 45.1%）。</p> <p>差別を許さない、人権意識を持った子どもの育成について、中学生保護者に比べ小学生保護者で取組が進nできていると感じる保護者（小学生保護者 50.6%、中学生保護者 42.9%）が高い。一方、「知らない」保護者も高い（小学生保護者 28.4%、中学生保護者 27.1%）。</p> <p>地域の小学校との連携状況について、「図れている」が 61.4%、「非常に図れている」が 13.3%、「図っていない」が 4.8%。（速報値）</p>	児童生徒 (2)
		保護者 (1)
		就学前施設園所 (3)
統計データ等	<p>（令和5年度全国学力・学習状況調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の平均正答率について、国語が 69.0（国 67.2、府 66.0）と高い。算数が 63.0（国 62.1、府 62.5）と高い。 ● 中学校の平均正答率について、国語が 63.0（国 69.8、府 68.0）と低い。数学が 44.0（国 51.0、府 50.0）と低い。英語が 39.0（国 45.6、府 45.0）と低い。 ● 話し合い活動を通じた対話的で深い学び（学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか）に関する質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”的割合は変化がないものの、「当てはまる」の割合が小学生は急増しており、全国に比べて高い。中学生では“当てはまる”的割合は増加しているものの、「当てはまる」の割合は減少し全国に比べて低い。 ● 総合的な学習の時間における問題発見・解決（総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか）に関する質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”的割合が小学生は増加しており、全国に比べて高い。中学生では“当てはまる”的割合は変化がなく全国に比べて低い。 ● 学校の授業以外での平日の学習時間（学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む））に関する質問に対し、小中学生ともに「3時間以上」「全くしない」の割合が全国に比べて高い。 ● ICT の活用（昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか）に関する質問に対し、小中学生ともに「ほぼ毎日」の割合が5割を超え、全国に比べて高い。 ● 発表する機会（昨年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか）に関する質問に対し、小中学生ともに「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」を合わせた“発表していた”的割合が全国に比べて高い。 ● 家庭学習についての教職員での共通理解（家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか）に関する質問に対し、「よく行った」「どちらかといえば、行った」を合わせた“行った”的割合が小学生、中学生ともに全国より低い。 ● 家庭学習の状況（家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む））に関する質問に対し、小学生では、「よくしている」「ときどきしている」を合わせた“している”的割合が年々増加しているが全国に比べて低い。中学生は“している”的割合が横ばいで全国に比べて低い。 	

次期計画に向けた 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査においては、小学生・中学生ともに、基礎的・基本的な知識・技能や、複数の文章やグラフから情報を関連付けて読み取る力に課題が見受けられ、これに対する教員の授業改善への意識にも、校種間や教員間でばらつきがある。児童生徒の資質・能力ベースで授業を進めるためにも、教員の意識改革や指導と評価の一体化の更なる充実が必要。 ・リーディングスキルの視点を理解した上での授業づくりについて、その必要性や活用方法を十分に理解して取り組んでいる教員が約半数であることから、「学力向上プラン」に基づいた授業改善をより一層広めていくことが必要。 ・塾等も含めた学校外での家庭学習の時間が小学生、中学生ともに二極化しており、児童生徒が家庭学習を習慣化できるよう指導していくことが必要。 ・英語教育の推進、キャリア教育の推進、差別を許さない等、人権意識を持った子どもの育成について取組が進んできていると感じる保護者の割合が高い一方で、それぞれの取組について「知らない」保護者も多いことから、泉大津市の教育の実践や成果を保護者に周知していくことが必要。 ・地域の小学校と就学前施設との連携が十分でない場合も一部あることから、公私含めて、就学前施設と地域の小学校との連携を強化することが必要。
----------------	--

重点目標2（仮）「多様な子どもがともに健やかに育つ教育を推進します」

国の方針	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標2 豊かな心の育成 目標3 健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成 目標7 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摶</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する</p>	
関連する現行計画の方向性	<p>基本的な方向性2 豊かな心と健やかな身体の育成 重点7 子どもの発達段階に応じた人権感覚を育む取り組みを進めます</p>	
アンケート調査結果	<p style="text-align: center;">調査結果概要</p> <p>支援が難しいと感じた児童生徒について、中学校教員に比べ小学校教員で「不登校傾向にある児童生徒」（小学校教員 80.1%、中学校教員 62.9%）「いじめ事案に関係する児童生徒」（小学校教員 42.4%、中学校教員 29.0%）「性の多様性に支援が必要な児童生徒」（小学校教員 28.5%、中学校教員 17.7%）「就学援助・生活保護を受給している児童生徒」（小学校教員 21.2%、中学校教員 11.3%）が高い。一方、小学校教員に比べ中学校教員で「日本語指導が必要な児童生徒」（小学校教員 33.1%、中学校教員 41.9%）が高い。</p>	問番号 教員 (3)
統計データ等	<p>(令和5年度全国学力・学習状況調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己肯定感（自分には、よいところがあると思いますか）に関する質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”的割合が、小学生は増加し全国に比べて高い。中学生では横ばいで全国に比べて低い。 ●先生はよいところを認めてくれる（先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか）に関する質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”的割合が、小学生は増加し全国に比べて高い。中学生では減少し全国に比べて低い。 ●朝食の矢喫食（朝食を毎日食べていますか）に関する質問に対し「している」の割合が8割程度と全国と同様。中学生では「している」の割合が、7割半ばと全国に比べて低い。 ●就寝のリズム（毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか）に関する質問に対し「あまりしていない」「全くしていない」を合わせた“していない”的割合が小学生、中学生ともに2割程度。中学生で年々悪化している。 ●起床のリズム（毎日、同じくらいの時刻に起きていますか）に関する質問に対し「している」の割合が小学生で年々改善しているが、中学生では年々悪化している。 	
次期計画に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特に中学生において、起床や就寝の生活リズムが悪化しており、食生活の乱れにもつながっていることが想定される。生活習慣の改善につながるよう指導していくことが必要。 ・「不登校傾向にある児童生徒」への支援にむずかしさを感じている教員が多いことから、チーム学校としての対応・関係機関等と連携した支援体制の充実が必要。 	

重点目標3（仮）「学校・家庭・地域がともに子どもが安心して、豊かに学べる環境を充実します」

国の方針	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標9 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上 目標10 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進 目標14 NPO・企業・地域団体等との連携・協働</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 連携・分担による学校マネジメントを実現する 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する</p>									
関連する現行計画の方向性	<p>基本的な方向性3 子どもをはぐくむ学校力・教師力の向上 重点11 コミュニティ・スクールによる学校と地域の協働活動を進めます</p> <p>基本的な方向性4 地域の豊かな学びの育成 重点15 新図書館を核として「まちぐるみ図書館」を進め、読書環境の向上を図ります 重点16 子どもが安心して生活できる放課後の居場所づくりを充実します</p> <p>基本的な方向性5 安全・安心な学びの充実 重点18 子どもたちの安全確保ならびに非行防止に向けた取り組みを行います 重点19 家庭教育支援や専門機関などと連携し、保護者支援の充実を図ります</p>									
アンケート調査結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; background-color: #cccccc;">調査結果概要</th> <th style="text-align: center; background-color: #cccccc;">問番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コミュニティ・スクールの推進について、中学生保護者に比べ小学生保護者で取組が進んできていると感じる保護者（小学生保護者 46.4%、中学生保護者 33.1%）が高い。一方、「知らない」保護者も高い（小学生保護者 30.1%、中学生保護者 33.1%）。</td> <td style="text-align: center;">保護者 (1)</td> </tr> <tr> <td>地域とともににある学校（パートナーとしての連携・協働関係）づくりを行うために、大切なことについて、「学校だよりやホームページなどにより、学校や子どもの様子を積極的に公開する」「ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く」「登下校時の見守りや本の読み聞かせ、校内環境整備など様々な活動を行う学校支援ボランティアを積極的に受け入れる」が高い。（速報値）</td> <td style="text-align: center;">学校運営協議会 (1)</td> </tr> <tr> <td>みらい応援隊や地域の大人はあなたを見守ってくれているかについて、「中学生に比べ小学生で見守ってくれていると感じる」が高い（小学生 85.8%、中学生 64.5%）。</td> <td style="text-align: center;">児童生徒 (3)</td> </tr> </tbody> </table>	調査結果概要	問番号	コミュニティ・スクールの推進について、中学生保護者に比べ小学生保護者で取組が進んできていると感じる保護者（小学生保護者 46.4%、中学生保護者 33.1%）が高い。一方、「知らない」保護者も高い（小学生保護者 30.1%、中学生保護者 33.1%）。	保護者 (1)	地域とともににある学校（パートナーとしての連携・協働関係）づくりを行うために、大切なことについて、「学校だよりやホームページなどにより、学校や子どもの様子を積極的に公開する」「ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く」「登下校時の見守りや本の読み聞かせ、校内環境整備など様々な活動を行う学校支援ボランティアを積極的に受け入れる」が高い。（速報値）	学校運営協議会 (1)	みらい応援隊や地域の大人はあなたを見守ってくれているかについて、「中学生に比べ小学生で見守ってくれていると感じる」が高い（小学生 85.8%、中学生 64.5%）。	児童生徒 (3)	
調査結果概要	問番号									
コミュニティ・スクールの推進について、中学生保護者に比べ小学生保護者で取組が進んできていると感じる保護者（小学生保護者 46.4%、中学生保護者 33.1%）が高い。一方、「知らない」保護者も高い（小学生保護者 30.1%、中学生保護者 33.1%）。	保護者 (1)									
地域とともににある学校（パートナーとしての連携・協働関係）づくりを行うために、大切なことについて、「学校だよりやホームページなどにより、学校や子どもの様子を積極的に公開する」「ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く」「登下校時の見守りや本の読み聞かせ、校内環境整備など様々な活動を行う学校支援ボランティアを積極的に受け入れる」が高い。（速報値）	学校運営協議会 (1)									
みらい応援隊や地域の大人はあなたを見守ってくれているかについて、「中学生に比べ小学生で見守ってくれていると感じる」が高い（小学生 85.8%、中学生 64.5%）。	児童生徒 (3)									
統計データ等	<p>（令和5年度全国学力・学習状況調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域との関わり（今住んでいる地域の行事に参加していますか）に関する質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”的割合が小学生では5割半ばと年々増加、中学生では約3割と低く横ばい。ともに全国に比べて低い。 ●地域への貢献の意欲（地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか）に関する質問に対し、小学生では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”的割合が約8割と全国と同様。中学生は“当てはまる”的割合が5割と全国に比べて低い。 ●自己肯定感（自分には、よいところがあると思いますか）に関する質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた“当てはまる”的割合が、小学生は増加し全国に比べて高い。中学生では横ばいで全国に比べて低い。（再掲） 									
次期計画に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールやその取組についての認知度に保護者間や地域間でばらつきがある。学校運営協議会においても、地域への情報提供の必要性が指摘されており、保護者や地域への情報発信が必要。 ・地域の行事等への参加率やみらい応援隊との関わりは、中学生に比べて小学生で高くなっている、地域との関係性の強さが、地域への貢献の意欲にもつながっていることが想定される。地域との関わりと自己肯定感との相関も各種調査で指摘されており、地域との関わりを様々な機会で創っていくことが必要。 									

重点目標4（仮）「子どもが豊かな学びを継続できる学校環境を向上させます」

国の方針	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標1 1 教育DXの推進・デジタル人材の育成 目標1 2 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化 目標1 5 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保 目標1 6 各ステークホルダーとの対話を通じた計画策定・フォローアップ</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 連携・分担による学校マネジメントを実現する これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する</p>
関連する現行計画の方向性	<p>基本的な方向性3 子どもをはぐくむ学校力・教師力の向上 重点8 学校の経営改善を進めます 重点9 小学校給食費の公会計化を進めます 重点10 キャリアに応じた様々な教職員研修を通して、さらなる教員の資質向上に努めます</p> <p>基本的な方向性5 安全・安心な学びの充実 重点17 学校教育施設・社会教育施設の再配置などを検討します</p>
市の方針等	<p>(泉大津市立学校における働き方改革の取組指針)</p> <p>●泉大津市の働き方改革の目的</p> <p>(1) 「教職員が子どもと向き合う時間」を十分に確保し、学校教育の質を維持・向上させること (2) 教職員のワーク・ライフ・バランスの取れた生活を実現し、健康でやりがいを持って働くことができる環境を整備すること</p> <p>●取組</p> <p>(1) 教職員の意識改革 (2) 学校運営体制の見直し (3) DX化の推進 (4) 行事等の見直し (5) 専門スタッフの活用等 (6) 部活動における負担軽減 (地域移行を含めた部活動の在り方の見直し)</p>
次期計画に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 教員の働き方改革が、子どもと向き合う時間や授業改善へつながるよう、教員の意識改革と学校の運営体制の改善を両輪ですすめていくことが必要。

重点目標5（仮）「市民の人生を豊かにする学びやつながりを生み出します」

国の方針	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標8 生涯学び、活躍できる環境整備</p>	
関連する現行計画の方向性	<p>基本的な方向性4 地域の豊かな学びの育成 重点12 史跡の保存と活用を推進します 重点13 文化・芸術の充実を図ります 重点14 市民のスポーツ活動推進と地域スポーツ団体の活動を支援します</p>	
アンケート調査結果	調査結果概要	問番号
	学校図書館で、本を借りている状況について、小学生で「月に数回以上」が73.7%、中学生で「全く本を借りていない」が77.3%。	児童生徒 (2)
	今の学年になってからの「本・雑誌」（電子書籍を含む）を読む状況について、中学生に比べ小学生で「5冊以上」（小学生 60.9%、中学生 43.0%）が高い。一方、「4冊以下」（小学生 19.9%、中学生 34.5%）は中学生が高い。また、「0冊」（小学生 2.3%、中学生 10.7%）は中学生が高い。	児童生徒 (2)
	4月から6月の間に、「本・雑誌」（電子書籍を含む）を読む状況について、中学生保護者に比べ小学生保護者で「5冊以上」（小学生保護者 50.4%、中学生保護者 6.8%）が高い。一方、「4冊以下」（小学生保護者 45.1%、中学生保護者 74.4%）は中学生保護者が高い。	保護者 (2)
	家（普段寝起きをしている場所）や学校（授業やクラブ活動）以外に、「ここに居たい」と思う居場所について、「あてはまるものはない」（小学生 4.4%、中学生 13.1%）が中学生で高い。	児童生徒 (4)
	泉大津市の文化に関係することの認知度について、「泉穴師神社」（小学生 54.4%、中学生 50.8%、小学生保護者 65.4%、中学生保護者 60.2%）「シープラを中心とした「まちぐるみ図書館」の取組」（小学生 50.6%、中学生 29.2%、小学生保護者 64.7%、中学生保護者 58.6%）「池上曾根弥生学習館」（小学生 39.6%、中学生 56.5%、小学生保護者 74.6%、中学生保護者 74.4%）「あすとホール」（小学生 33.3%、中学生 21.4%、小学生保護者 57.5%、中学生保護者 48.1%）が高い。	児童生徒 (5) 保護者 (4)
統計データ等	<p>（令和5年度全国学力・学習状況調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本やインターネット等を活用した指導（児童生徒に対する指導に関して、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか）に関する質問に対し、小学生では月に数回以上行った学校が8割を超えており、全国に比べて高い。一方、中学校では、3割半ばと全国に比べて低い。 ●家庭にある蔵書数（あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く））に関する質問に対し、小学生、中学生ともに全国に比べて、蔵書数が少ない。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外で全く本を読まない児童生徒は、小学生・中学生ともにおり、読書活動や図書だより等の児童生徒が自ら本を読みたくなるようなしきけが必要。 ・家や学校以外で居場所がない中学生が多くみられる。各種調査においても児童生徒が最も安心する居場所は家の割合が高いものの、特に家に居場所がない子どもについて、地域や企業と連携して、安心して過ごせる居場所づくりが必要。 ・「泉穴師神社」「シープラを中心とした「まちぐるみ図書館」の取組」「池上曾根弥生学習館」などの認知度は高いものの認知度が低い資源もある。小学校、中学校を一貫して、泉大津の歴史・文化について、触れて学ぶ機会をつくっていくことが必要。 	
次期計画に向けた課題		